

水について教えてもらった

板倉 莉香

基山町立基山小学校

わたしたちは、社会で水について勉強していました。そこで六月十日に下水道のしごとをしているみなさまに来てもらい、水について教えてもらいました。プリントや下じきを使って分かりやすく説明してもらい、分かりやすくお話ししてくれたのは、かじわらさんです。あまり水について考えることはなかったですが、水についての勉強を始めてから水をのむ時に水をきれいにしてくださっている人たちにかんしやの気持ちをこめてのむようになりました。

初めに「水は大切なもの」という話をしてもらいました。その五つのうち、一番大切だと思ったのは「のむことができる水はとても少ない。」ということだと思いました。水がないと料理などいろいろなことができないからです。そして、色でよこれを調べる実けんりゆうにゆう水は、けっこうよごれていて、しより水は、とつてもきれいでした。見た目のじっけんでも流入水はよごれていて、しよ理水はきれいでした。紙のとけ方の実けんでは、トイレトペーパーがとけて、ティッシュペーパーは、とけませんでした。そして、ペットボトルのふたのところティッシュペーパーがつまってしまうました。なのでトイレには、トイレトペーパーがいはいは流さないようにします。そして動画を見た時も「安全できれいな水をとどけるくふうは大切」と言う言葉があったのでわたしも水を大切にしたいと思います。二十四時間三百六十五日、仕事をするのは大変だと思うけど、みんなのため

にはたらいてくれているから大切にしようと思いました。くわしく教えてもらった脱水ケーキという名前の由来は、浄水場、下水処理場で発生した汚泥産業はいき物を脱水処理したものの呼称です。たんじゆんにケーキとも呼ばれるそうです。浄水場でのすいしつ処理や下水処理場でのろ過処理の過程で発生する汚泥は最終的にしようきやく処分されるがしようきやく前に必ず脱水ケーキのしようたいにかこうされます。

わたしたちが一人で一日に家庭で使う水のりようは二百リットルから二百五十リットル使用しています。いま、下水道がなかったら川や海が汚れて、魚などの生き物も住めなくなってしまうたり川の水を利用しているのみ水にあくえいきようが出てしまうことなどがあるので下水道は必要だと思いました。水について社会で勉強したり出前じゆぎようなどで教えてもらったことがたくさんあるので家庭でも考え、活かしていきたいと思います。そして、プレゼントでノートをもらいました。はんのみんなでほしいノートを分けました。家ぞくのみんなにも水について教えてあげたいと思いました。

わたしは、「命」「幸せ」が大事だと思うことができました。よく考えると水も「命」「幸せ」をつくる物ではないかなと思いました。だからあらためて水は大事だと思いました。これからも水を大切にしていきたいです。